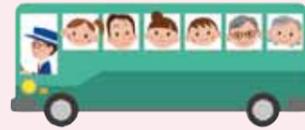


4月1日からのりあいバスの 路線が変わります！

地域支援課 ☎ 23-3949

のりあいバスの利用者の方から「非常に助かっている」との声とともに「目的地までの乗車時間が長い」「乗り継ぎができない」「時刻表どおりバスが来ない」などのいろいろな声もいただきました。

そこで、目的地までの所要時間の短縮や乗り継ぎ等の利便性を高めるために路線を変更し、4月1日から新路線で運行します。伊吹線は今までの通りの路線で運行します。



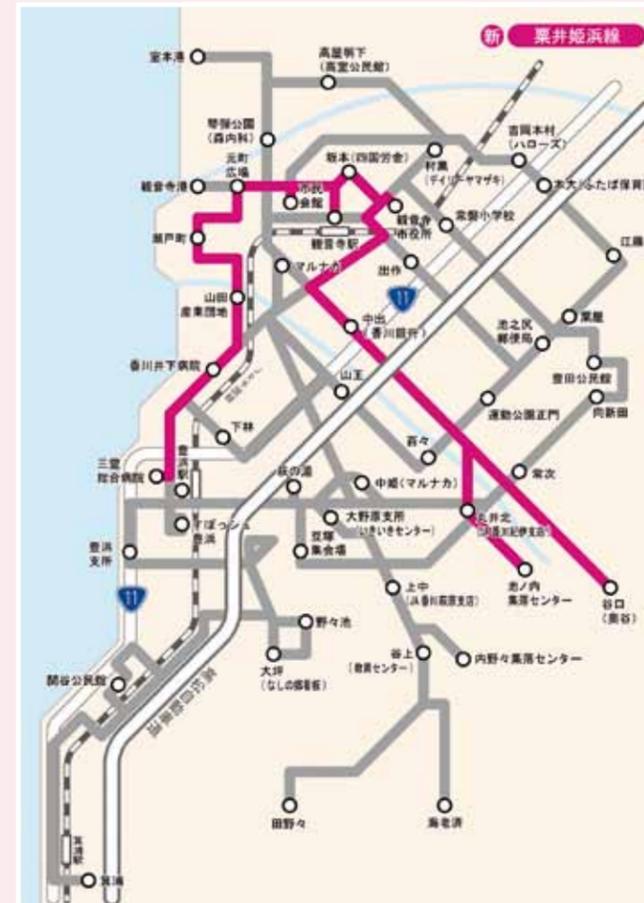
路線の変更点

- 伊吹線を除く路線が4路線から5路線となり、全ての路線が「観音寺市役所」「観音寺市民会館」「JR観音寺駅」「三豊総合病院」を通ります。一度乗り継げば市内各所に行けるようになります。

- 現在の大きく迂回するルートを他の路線に振り替え、直線的な分かりやすい路線にします。
- 新しくなった5路線間だけでなく、伊吹航路、JR、三豊市のコミュニティバスとも乗り継ぎしやすいようにします。
- 新しい時刻表は、広報かんおんじ4月号と一緒に配布します。

これまでと変わらないところ

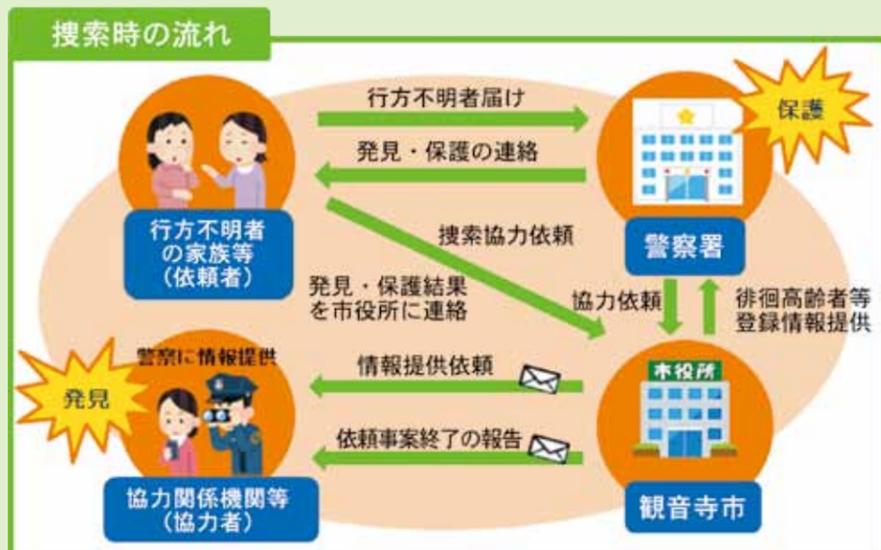
- 乗車料金 = 1回100円
(小・中学生が通学にのりあいバスを利用する場合や就学前の子どもは無料)
- 運休 = 日曜日と12月29日～1月3日
(伊吹線は祝日も運休)
- 身体障害者手帳や療育手帳、精神障害者保健福祉手帳を持っている人は降車の際、運転手に見せると、乗車料金を免除します。
- 必ずバスの走行車線側でお待ちください。
- バス停以外でも乗降できるフリー乗降制度は継続して行います(国道11号を除く)。
- 回数乗車券も引き続き販売します(4月1日以前に購入した回数乗車券もそのまま使用できます)。



「観音寺市認知症高齢者等徘徊SOSネットワーク」

皆さんの協力をお願いします

「観音寺市認知症高齢者等徘徊SOSネットワーク」とは、認知症等の症状により徘徊のおそれのある高齢者が行方不明となった場合に、家族等からの依頼を受け、身体的特徴や服装などの情報を防災無線放送やメール（観音寺ホットメール）配信することで、地域の皆さんや関係機関の協力をいただき、行方不明者の早期発見を目指すものです。



協力者になるには

協力の意思がある人なら誰でも参加することができます。事前に、観音寺ホットメールの登録をし、行方不明者の情報を受け取ったときは、可能な範囲で、発見や保護のための情報提供をお願いします。

- 1) 空メールを送信** (件名・本文は不要)
entry@city.kanonji.lg.jpへメールを送信
- 2) 返信メールを受信**
「観音寺ホットメール受付」という返信メールが届く
- 3) URLにアクセス**
メール本文中にあるURLに接続
- 4) 登録**
登録画面が表示されたら利用規約を確認後、「くらしの情報」の配信情報を選択（「くらしの情報」の「市からのお知らせ」で行方不明情報を配信）
- 5) 完了メールの受信**
「登録完了」のメールが届き登録完了

すでに、登録をしている人は、再度登録する必要はありません。

依頼者になるには

事前に観音寺市認知症高齢者等徘徊SOSネットワーク事業に登録しておく、行方不明となった場合に、円滑に検索を開始することができます。

対象者

市内に居住し、認知症等により徘徊のおそれのある高齢者等（介護保険施設等の入所者を含む）

申請方法

高齢介護課、各支所に配置している観音寺市認知症高齢者等徘徊SOSネットワーク事業登録申請書に必要事項を記入し、提出してください。詳しくは、お問い合わせください。



問い合わせ先

高齢介護課高齢者福祉係 ☎ 23 - 3968

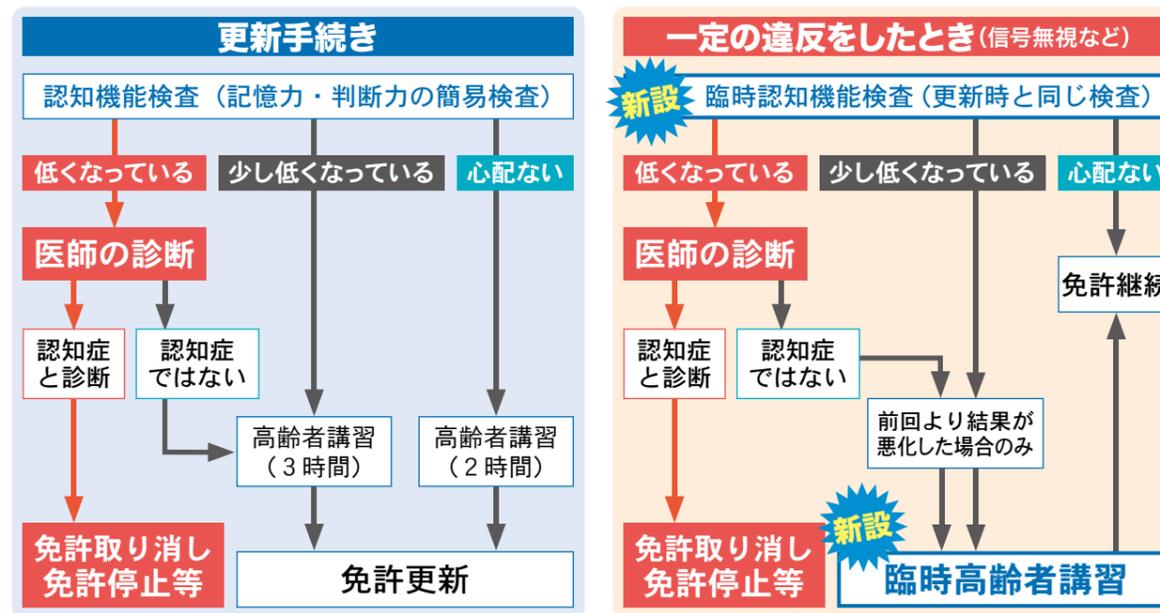
3月12日から道路交通法が一部改正されます



高齢者講習が変わります

- 70歳以上75歳未満の運転者は更新時の高齢者講習が3時間から2時間に短縮されます。
- 75歳以上の運転者が、認知機能が低下したときに起こしやすい一定の違反行為をすると、「臨時認知機能検査」を受けなければなりません。
- 臨時認知機能検査を受け「認知機能が低下しているおそれがある」と判断されると、「医師の診断」または「臨時高齢者講習（個別指導と実車指導）」を受けなければなりません。

75歳以上の運転者の皆さんへ



問い合わせ先 観音寺警察署 ☎ 25 - 0110

運転免許証を自主返納した65歳以上の人のりあいバス回数乗車券を交付します

■対象者（全ての要件を満たす人）

- ・ 市内に住所があり運転免許証を自主返納した人
- ・ 運転免許自主返納時に満65歳以上の人
- ・ 運転免許証を自主返納して5年を経過していない人

■支援内容

観音寺市のりあいバス回数乗車券（1万円分）
※交付は1回限り

■申請に必要なもの

「申請による運転免許の取消通知書」または「運転経歴証明書」と印鑑

■交付

申請後、「決定通知書」と「受領書」を郵送します。「受領書」に必要事項を記入、押印して「決定通知書」と一緒に下記まで持参してください。

その他の高齢者運転免許自主返納者優遇制度は香川県ホームページで確認できます。

香川県 交通安全のページ [検索](#)

■申し込み・問い合わせ先

地域支援課 ☎ 23 - 3949

市内の交通事故 1/1～1/31

| | |
|------|----------|
| 発生件数 | 33件（27件） |
| 死者数 | 0人（1人） |
| 負傷者数 | 37人（34人） |

（ ）内は昨年

おめでとう
ございます
平成28年度
人権作品優秀賞



香川西部養護学校 3年
石川 幸来さん

観小六年 大谷 奈美
友情
観音寺小学校 6年
大谷 奈美さん

おめでとうございます
平成28年度
人権作品最優秀賞



最優秀人権作文 (中学生の部)
優しい心
中部中学校 3年 岡田 凌輔 さん

私が、十三歳の春に、大好きだったおばあちゃんが亡くなりました。おばあちゃん、庭の植物を育てていたり、買い物に行ったり、毎日朝ご飯と晩ご飯を作ってくれたり、歳のわりにとても元気でした。だから私はまだ死ぬはずないと勘違いをして、酷いことをしてしまいました。おばあちゃんはまだ歳だから、少し耳が遠かったのに、私は一度言っただけで聞いておばあちゃんが面倒くさくなって無視

してしまいました。それから少し時間が経ち、おばあちゃんが倒れました。二週間入院しましたが、意識が戻らないまま亡くなりました。私はたくさん泣いて、たくさん後悔しました。年をとっているから目が悪くなったり、耳が悪くなったり不自由なところがでてくるのは、あたりまえなのに、生まれた時からお世話になつたおばあちゃんに優しくできなかったのです。

移動を手伝ったりしました。私はこの一日、お年寄りの方を楽しませることを目標に一日過ごしました。話を自分から積極的にしました。一度言っただけでいなくなつたら、大きな声でゆつくりと話しました。移動介助や、食事介助をしました。しかし、面倒くさいと思つたり、嫌だと思つたりすることはありませんでした。自分から参加しているからあたりまえなのですが、次は何をしたらいかなあと考え、職員の人に聞いたり、自分ですることを見つけたりして積極的に行動することができました。その時私は、お年寄りのことを考えて行動できていたと思えます。

があると思います。大変なことをした後でも、「ありがとう」と言われると、清々しい気持ちになり、やってよかったなと思えます。私は小さい時におばあちゃんから「ありがたい子がね」と言えるからいい子やね」と、言われてとても嬉しかった記憶があります。だから、今でも「ありがとう」とすぐ言うようにしています。学校でも言える機会はたくさんあります。プリントを配ってくれた時、自分の仕事を手伝ってくれた時、勉強を教えてくださいましたなど、まだまだあります。ほんのささいなことですが、それを続けて積み重ねることが大切だと思います。私は、お年寄りからの「ありがとう」が聞きたくて動いてい

たんだと分かりました。体験学習で最後に花火大会がありました。お年寄りは自分で火がつけられないから、火をつけた花火を私たちがもっていきましました。すると、「ありがとう」と家族の方からも言ってもらえました。自分だけが楽しまず、周りに気を配るといふ大切さも学びました。

加して、お年寄りを大切にすることができたし、たくさんの方と出会えました。今では、相手の笑顔を見るために、自分から行動するようにしています。親切をして嫌な気持ちになる人はいないし、されて嫌な人もいません。今は大変かもしれないけれど、してきた親切はいろんな形で自分に返ってきます。人は支え合って生きています。一人で生まれ、一人で死ぬなんてできません。私はこれから、自分も支え合っている一人なんだと思ひ、人種や性別、年齢など関係なく、たくさんの人を助けることができる優しい心を持ちたいです。(原文どおり)



男女共同参画
地域の防災力向上に女性の力を

企画課男女共同参画推進室 ☎23-3917

近年、南海トラフ地震の発生が心配されるなか、防災意識が高まっています。これまで日本は、大震災や台風など、多くの自然災害を経験しています。災害発生時の対応では、力が必要とされる場面が多く、これまでの防災体制は男性主導で考えられてきました。そのため、男女共同参画の視点から、さまざまな問題点が浮き彫りになってきています。

例えば、避難所生活で授乳や着替えをするための場所がなかったり、衛生用品などの生活必需品が不足したりするなど、男女で必要なものに違いがあるにもかかわらず、女性への配慮が欠けていました。また、女性のように食事の準備や清掃などが割り振られることもあったと報告されています。これは、避難所の運営自体が男性中心だったため、女性の要望が重要視されず、固定的な役割分担意識が強くなつてしまったのです。このような体験を通して、最近では災害対応の現場で女性が活躍し、支援の手が届きにくい高齢者や乳幼児などへの細やかな配慮がなされるようになってきました。また、これまでに培った経験やネットワークを生かした被害者支援も行われています。

防災分野において、女性が果たす役割の大きさを認識し、女性の意思決定の場への参画やリーダーとしての活躍を推進することが重要です。また、平常時から男女共同参画の視点で防災について話し合っておくことも大切です。

女性が男性とともに力を発揮することで、地域の防災力向上を目指しましょう。



3月は自殺対策強化月間です

自殺対策強化月間は、例年3月に自殺者が多いことから、平成22年に国において制定されました。人口動態統計によると、平成27年の自殺者数は全国で約2万4千人、そのうち香川県は162人、観音寺市は8人です。自殺者の原因の多くが社会的要因により追い込まれた末の死で、誰にでも起こりうる社会的な問題です。自殺前には多くの場合、何らかのサインが出ています。自分自身はもちろん、家族や周囲の人がサインに気づき、まずは誰かに話してみる、そして必要な支援につなげていくことが大切です。

- 眠れない、朝早く目覚める
 - 自分は役に立つ人間と思えない
 - 食欲不振
 - 頭痛・頭が重い
 - 毎日の生活に張りがない
 - 憂鬱で気分が重い
 - 便秘や下痢をする
 - 注意力や集中力の低下
- 早期発見、早期治療が大切です
- こころの健康相談
3月1日(水)
(毎月第1水曜日 午後1時～午後3時)
 - 市役所1階相談室
 - 社会福祉障がい者福祉係
☎23-3963
 - こころの電話相談
平日 午前9時～午後4時
30分(年末年始、祝日を除く)
 - 香川県精神保健福祉センター
☎087-833-5560
 - 医師による心の健康相談
3月22日(水)
(毎月第4水曜日 午後1時45分～)

うつ病とは？
自殺と関係の深い「うつ病」は誰でもかかるかもしれない「こころの病気」です。こんな症状が2週間以上続いたら要注意！
○ これまで楽しんできたことが楽しくない

☎25-2052